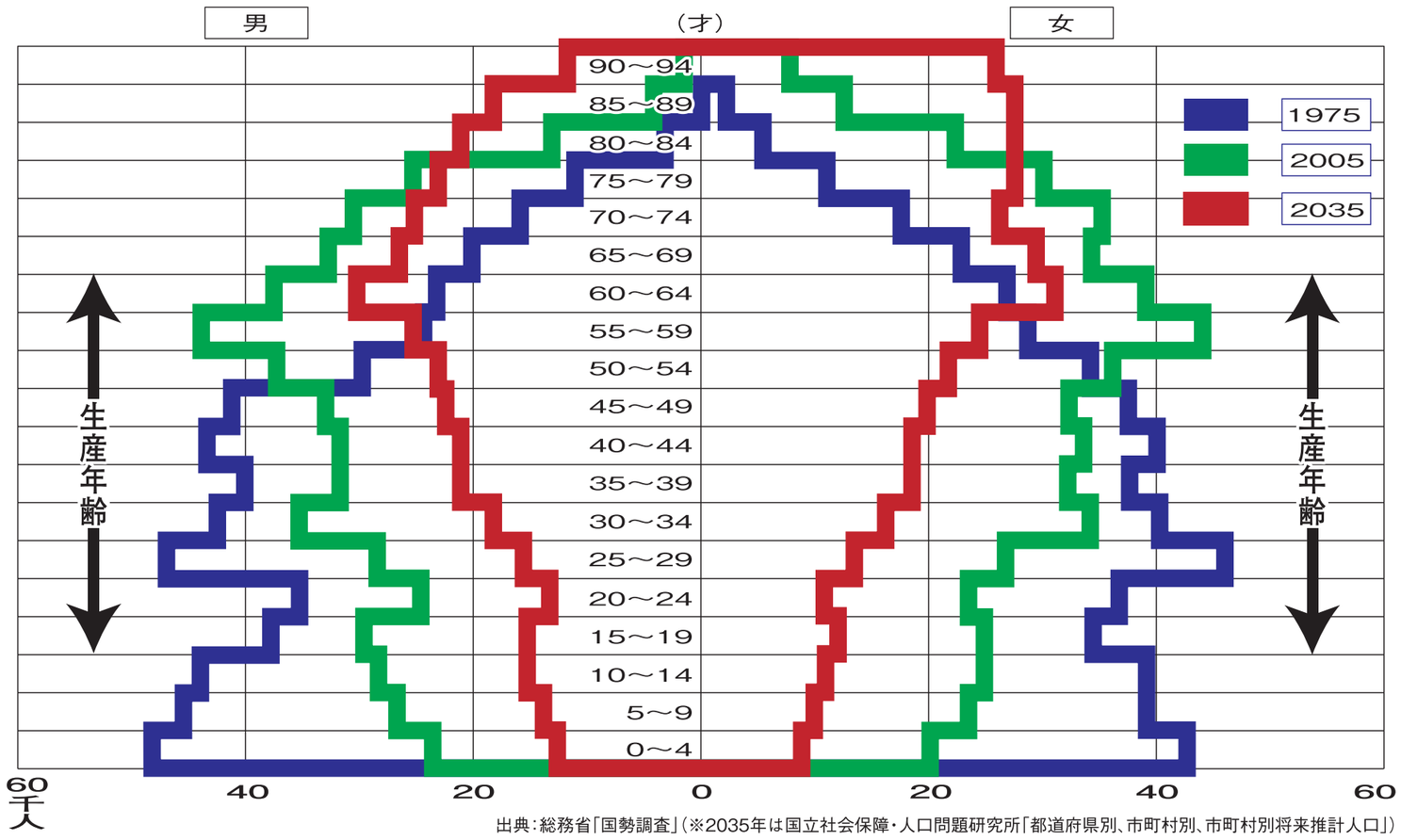
浦口こうてんの 県政報告

発行：浦口こうてん事務所
〒641-0045　和歌山市堀止西 1－10－14
TEL：073-424-4860 FAX：073-424-3733
E-mail　mail@kouten-u.jp
URL　http://www.kouten-u.jp
平成26(2014)年4月　Vol.7

和歌山県 これから約20年で「生産年齢人口（15歳～64歳）」4割減少!?

和歌山県の人口ピラミッド（1975－2005－2035）

＜浦口高典議員の質問に関する資料＞



出典：総務省「国勢調査」（※2035年は国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別、市町村別、市町村別将来推計人口」）

老齢人口（2005 年＝ 100）65歳～

	1975 年	2005 年	2035 年
合計（14 選挙区）	44.6	100.0	113.9
和歌山市選挙区	38.1	100.0	119.5
海南市・海草郡選挙区	53.3	100.0	95.1
橋本市選挙区	38.1	100.0	139.9
有田市選挙区	46.1	100.0	108.6
御坊市選挙区	48.6	100.0	99.7
田辺市選挙区	46.0	100.0	109.0
新宮市選挙区	48.0	100.0	100.0
紀の川市選挙区	48.3	100.0	122.5
① 岩出市選挙区	25.2	100.0	224.9
伊都郡選挙区	54.1	100.0	84.8
有田郡選挙区	51.5	100.0	106.8
日高郡選挙区	54.2	100.0	103.7
西牟婁郡選挙区	43.9	100.0	114.8
東牟婁郡選挙区	52.4	100.0	83.5

生産年齢人口（2005 年＝ 100）15歳～64歳

	1975 年	2005 年	2035 年
③ 合計（14 選挙区）	110.2	100.0	59.6
和歌山市選挙区	108.7	100.0	60.0
海南市・海草郡選挙区	138.9	100.0	53.3
橋本市選挙区	78.0	100.0	58.6
有田市選挙区	115.1	100.0	55.9
御坊市選挙区	121.0	100.0	64.0
田辺市選挙区	111.0	100.0	59.1
新宮市選挙区	138.7	100.0	55.7
紀の川市選挙区	96.7	100.0	58.6
岩出市選挙区	38.1	100.0	87.8
伊都郡選挙区	154.1	100.0	46.6
有田郡選挙区	123.2	100.0	61.7
日高郡選挙区	122.8	100.0	60.8
西牟婁郡選挙区	111.0	100.0	57.1
東牟婁郡選挙区	156.7	100.0	44.3

年少人口（2005 年 100）～15歳

	1975 年	2005 年	2035 年
② 合計（14 選挙区）	176.1	100.0	48.8
和歌山市選挙区	187.4	100.0	49.9
海南市・海草郡選挙区	229.0	100.0	43.6
橋本市選挙区	121.5	100.0	44.9
有田市選挙区	181.7	100.0	46.3
御坊市選挙区	179.5	100.0	50.9
田辺市選挙区	185.8	100.0	45.9
新宮市選挙区	214.2	100.0	48.1
紀の川市選挙区	130.1	100.0	43.2
岩出市選挙区	57.3	100.0	72.4
伊都郡選挙区	259.0	100.0	36.0
有田郡選挙区	172.9	100.0	50.2
日高郡選挙区	175.7	100.0	49.6
西牟婁郡選挙区	188.1	100.0	46.3
東牟婁郡選挙区	268.7	100.0	35.8

高齢化率（65歳以上）約1.5倍に（38.6%）

（平成25年2月定例会）特に後期高齢者（75歳以上）が急増!! また65歳以上の要介護認定率全国3位（平成22年）

浦口議員　まず、お手元に配付しております人口ピラミッドということについてであります。

紺ラインの1975年（昭和50年）は、25歳から29歳の部分が男女とも突出をしていますが、これは団塊の世代を含む人たちです。そして、その世代の子供たちが団塊ジュニアの世代を含むゼロ歳から4歳ということになります。2005年（平成17年）の緑ラインを見ていただくと、この時点で団塊の世代を含む人たちが55歳から59歳になり、団塊ジュニアの世代を含む人たちが30歳から34歳の突き出たラインになります。そして、22年後の2035年（平成47年）の赤ラインを見ていただければ、75歳以上のいわゆる後期高齢者が大幅に増え、子供や若者たちが極端に少なくなっていることは一目瞭然であります。

和歌山県の高齢化率は、平成23年、27・5%で全国6位ですが、平成47年では38・6%で、秋田県に次いで全国2位になると言われております。そして、県議会の選挙区ごとの推計人口データを、2005年を100として、老齢人口、生産年齢人口、年少人口と区分した数値を出しました。①伊都郡や東牟婁では逆に高・老齢者人口そのものが減少に転じています。しかし、岩出市のように2倍以上に増加するところもあります。驚いたのは、②年少人口は県全体で半分以下になり、伊都郡や東牟婁では3分の1近くまで減少することです。もっと驚くべきことは、③県全体で生産年齢人口が4割以上減少してしまうことです。

仁坂知事、この人口ピラミッドを見て率直にどのように思われますか。またもし推計人口どおりの人口構成になってしまったときどのような社会になるか、2035年の県のイメージについて、お答えください。

私が申し上げたいのは、このような社会が近い将来必ずやってくるという現実をしっかりと受けとめ、今からそれに備えた施策を講じていく必要があるということです。市町村や県民が一体となって取り組んでいく必要があるのではないでしょうか。それだけに、ここで県民の皆さんに、よい意味での危機感を持っていただけるようなメッセージを発信していただきたいと思います。

知事（仁坂吉伸君）　人口減少と高齢化の進展は全国共通の課題でありますが、和歌山県は全国に先行する形で進行しているということが配付資料を見ても明らかだと思います。

生産年齢人口を増やすためには、働く場がないといけません。企業誘致とか産業振興など、働く世代をできるだけ増やすように取り組むとともに、子供を増やすための施策も取り組まないといけないと思っております。

2035年がどうなるかという点については、趨勢としてはやっぱりこのグラフにあるような形になっていくだろうけれども、現実はそうならないようにしたい。と同時に、趨勢がそうなるとすれば、高齢者が自立した生活を送ることができるように力を注いでいきたいと考えております。

メッセージとしては、人口減少もできるだけ食いとめ、高齢者生活も楽しく暮らせるように、県としてはそういう政策を続けてまいりますので、県民の皆様も、大いに参加してほしいと考えております。

浦口議員　次に、『健康長寿日本一わかやま』ということについてであります。

御案内のとおり、2020年の65歳以上の高齢者の介護認定率が和歌山県は、全国で3番目に高いということであります。だからどうすればよいのか。平成20年4月作成の和歌山県長期総合計画に書いております、『健康長寿日本一わかやま』を本気で目指すことではないかと私は思います。この『健康長寿日本一わかやま』の実現について、福祉保健部長、本気で取り組む意欲があるのかどうか、お聞かせください。

福祉保健部長（山本明史君）　県では、『健康長寿日本一わかやま』の実現を目指し、県民参加型の健康づくりに取り組んでいます。来年度につきましては、がん検診対象者への受診勧奨の徹底や、リレーウオークの市町村単位での実施等を重点的に行ってまいります。

浦口議員　和歌山県民が体力的に少し劣る原因の1つは、やはり運動不足にあると私は思います。

そこで、体力の衰えを徐々に感じ始める40歳ぐらいからのエクササイズ、ミドルエクササイズというものを、生涯教育の観点からつくり、運動を習慣化し、元気な高齢期を迎えることができるように考えてはどうかと思うのですが、教育長、いかがでしょうか。

教育長（西下博通君）　議員御指摘のとおり、新たにミドルエクササイズをつくることも一考ですが、ウオーキングやジョギング、ラジオ体操などが、手軽にできるエクササイズとして有効だと考えております。

浦口議員　私が委員長を務めさせていただいております福祉環境委員会の県外調査で長野県に行き、特に興味深かったのは保健補導員制度というもので、約1万千人のボランティアが1人平均して約70軒の住民宅を訪問し、健康管理を推進しているということでした。

私は、住民の健康保持のためには運動と栄養、そして定期的な健康診断ということが特に大事ではないかと以前より考えていました。例えば、国保の特定健診受診率も、平成22年度で長野県は40・0%ですが、和歌山県は25・7%でしかありません。和歌山県の実態はこのような状態ですので、それを少しでも高める日常活動や、また、運動や栄養についても適切にアドバイスしていくこの保健補導員制度は、大変すばらしいものだと改めて思いました。

そこで、福祉保健部長、健康補導員とまでいかなくとも、まずは健康サポーターでもいいのですが、このような制度をつくることについてお考えをお述べください。

福祉保健部長（山本明史君）　和歌山県においては、地域・職域連携推進協議会を立ち上げ、地域の特性に応じた健康づくり事業を実施してきたところです。今後、各地域における健康づくりのリーダーの拡充と養成を通じ、地域・職域連携推進協議会をさらに発展させ、長野県の保健補導員のような地域に密着した健康づくり活動を実行してまいります。

浦口議員　昨年の10月28日に、県が主催する「わかやま食と健康フェア2012」というイベントがありました。目を引いたのは、公益財団法人わかやま産業振興財団の地域イノベーション戦略支援プログラム事業で、サブタイトルが「地域資源を活かした健康産業イノベーション」、さらに「県民健康力の向上と保健機能製品の世界展開」というブースでした。

資料では元気社会推進リーダーの育成という項が挙げられておりますが、具体的にどのような人材を育成していくのでしょうか。まず、この事業の概要と健康社会推進リーダーの育成について、商工観光労働部長、お答えください。

商工観光労働部長（大門達生君）　今回の地域イノベーション戦略支援プログラムは、今後5年間で地域特産果実の機能成分研究の取り組みと、食、運動、健康にかかわる人材育成プログラムの開発の取り組みの2本柱を推進し、地域資源を活用した健康産業イノベーションと元気社会の創出を実現していくものです。

元気社会推進リーダーの育成についてですが、健康食を考案し利用促進する健康マネジメントマスターや、効果的に栄養を摂取するための運動方法を指導するエキスパートインストラクターの育成が必要であると考えております。

浦口議員　『健康長寿日本一わかやま』を実現するための具体的な計画を健康推進課の担当の方にお尋ねしたところ、市町村や企業、学校、市民グループなどとの連携、地域に根差した生涯を通じた健康づくりの推進ということでした。この中で地域・職域リーダーの育成というのがございます。

これは、先ほどの健康社会推進リーダーと共通する部分が非常に多いと思います。共通の課題である『健康長寿日本一わかやま』の実現に向けて協働していかなければならないと思いますが、福祉保健部長、御答弁をお願いいたします。

福祉保健部長（山本明史君）　県では地域・職域連携推進協議会を中心に、地域における健康づくりの活動を実施しています。地域イノベーション戦略支援プログラムで検討されている食、運動、健康にかかわる人材育成プログラムの開発については、福祉保健部として制度設計に取り組みます。

浦口議員　これからも、『健康長寿日本一わかやま』を目指し、知事を中心に和歌山県並びに和歌山県民の皆さん全員が立ち上がっていただけるよう、私も頑張ってまいる所存でございますので、本気の取り組みに大いに期待します。

日本一わかやま』遂に県が確約！

県庁内に『健康長寿日本一わかやま推進会議』

平成25年9月定例会

「健康推進員」制度創設　年間500人5年間2500人育成

200人の「ラジオ体操指導員」を養成　県内15箇所1000人に

浦口議員　質問の前に、御報告がございます。それは、去る7月28日、8月3日、4日と開催されました第10回おどるんや～紀州よさこい祭り～におきまして、本年は10回目の記念大会ということでもあり、参加チーム数100チーム、踊り子3038人、観客動員数が3日間で延べ28万人と盛会裏に終えることができました。

この祭りは、今から10年余り前に2人の若者が踊りを通じて和歌山を元気にしたいという思いで立ち上げたイベントで、私も当初から開会に向けて尽力させていただきましたが、それが今では和歌山を代表する祭りの1つになったことは大変感慨深いものがあると同時に、知事初め県職員の皆さんの御支援、御協力をいただいたことに心より厚く御礼を申し上げる次第でございます。

それでは、本題に入らせていただきます。

『健康長寿日本一わかやま』の実現についてであります。

この問題につきましては、昨年9月議会、本年2月議会に続き、これが3回目であります。平成20年4月に発表された和歌山県長期総合計画の中に『健康長寿日本一わかやま』をめざします」と明記されているものです。

日本一を目指すという言葉は、この長計の中ではほかには一言も載っておりません、それだけ、県民の皆さんが健康で明るい日々を送り、生き生きと元気な人生を和歌山県において全うすることを仁坂知事は望んでいるんだなと、敬意を表する次第でございます。

しかし、昨年9月議会で資料として提出し、この長計の参考となった平成17年の国勢調査をベースとした都道府県別健康寿命等の状況では、和歌山県の男性の平均寿命は78・08歳で全国41位、女性は85・27歳で全国43位、健康寿命はさらに下がって男性は75・06歳で42位、女性は78・45歳で45位ということでしたが、そこで特に注目したのは、女性において平均寿命が和歌山県とほぼ同じ43位の茨城県より、和歌山県の健康寿命が2年2カ月短いということでした。

本日は、お手元に、平成22年度の国勢調査をベースにしたものをお配りしております。これによりますと、和歌山県の平均寿命は男性79・07歳で、平成17年度の41位から37位になりましたが、健康寿命は76・52歳で、平成17年度より数値は伸びておりますが、42位のままとなっております。

また、女性は平均寿命が85・69歳で45位、健康寿命が79・46歳で46位と、いずれも平成17年度より数値は伸びているんですけれどもランクを下げ、この表を見れば肝心の健康寿命が一目瞭然、極めて最下位に近いということであります。

平成20年4月発表の長計の達成期限10年ではなかったでしょうか。あと4年6カ月しかありませんが、本当に『健康長寿日本一わかやま』は達成可能なのでしょうか。

また、8月1日に朝刊各紙に載っておりましたけれども、全国の市区町村別の平均寿命、これは47都道府県ではなく市区町村別なのですが、男女とも平均寿命の上位、下位5つの市区町村の名前とその年齢が載っておりました。

それによりますと、男女とも平均寿命の一番短いのは大阪市西成区で、女性の平均寿命が西成区に次いで短いのが、何と御坊市なんです。しかも、西成区の女性の平均寿命が83・8歳に対し、御坊市は84・0歳でしかありません。また、女性の一番平均寿命の長い沖縄県北中城村は89歳ですので、御坊市は平均で5歳も短命であるということになります。

厚生労働省のホームページから詳しいデータを出しますと、上位、下位50市区町村のランキングというのがありまして、その女性の下位50の中に和歌山県は御坊市を含め、かつらぎ町、那智勝浦町、橋本市と、4市町が入っております。

さて、ここで福祉保健部長、このような状況の中で『健康長寿日本一わかやま』を本当に目指すのであれば、県当局の本気度が問われていると私は思います。

ちょうど1年前に同じ質問をしたときに仁坂知事は、「現状は、御指摘のとおり、目標――つまり健康長寿日本一ですね――にはまだまだ遠い。しかし、この目標に向かって、強い意志を持って頑張らにゃいかんというふうに思っております」。そして、県民参加型の健康増進等については、「これからさらに力を入れて頑張って、『健康長寿日本一わかやま』を目指して関係部局が一致団結して取り組んでいきたいと考えております」とはっきりと答弁されています。

しかし、平成22年度の平均寿命、健康寿命の結果が新たに出て、さらにランクが落ちているという状況が明らかになった中で、県庁の関係部局が一致団結して先に進むためにも、私はやはり『健康長寿日本一わかやま』推進会議の設置が必要だと思いますが、福祉保健部長、御答弁ください。

福祉保健部長（中川伸児君）　健康寿命を伸ばし、『健康長寿日本一わかやま』を実現するため、県では、運動による健康づくりや生活習慣病の予防、がん等の疾病対策、感染症対策等の施策に取り組んできたところです。

本年度からは、従来、保健所単位で実施していたリレーウオークを全市町村で実施する健康づくりの取り組みを進めるとともに、がん検診の受診率向上のため、対象者一人一人に受診券をお送りする事業を実施しております。

今後、県として関係部局が横断的な連携を進め、県民の健康づくりに一致団結して取り組んでいくため、福祉保健部が中心となり、『健康長寿日本一わかやま』を目指すための推進会議を設置してまいりたいと考えております。

浦口議員　『健康長寿日本一わかやま』推進会議を庁内に設置していただくということ、大変この言葉、重く受けとめております。

さて、私が『健康長寿日本一わかやま』について平素県民の皆さんに語るとき、必ず言っていることがございます。それは、健康を害するということは、個人の負担だけではなく、国や市町村、それに保険と、つまりみんなの世話になるということです。それだけに、健康寿命を伸ばし、要介護期間を短くすることは、今後、大変重要なのではないでしょうかということを常に申しております。

実は、今回も茨城県と和歌山県の平均寿命は男女ともほぼ同年数で、それを同じと仮定したとき、つまり男女が同じ長さの人生でどれだけの要介護期間の差があるかというと、男性で1年9カ月、和歌山県の方が長いということになります。例えば、若いときから運動習慣や正しい生活習慣を身につけ、健康づくりをすることによって、介護認定が遅くなるということは十分考えられます。

そういったことで、和歌山県の要支援1や2、さらに要介護1などの介護認定の軽度の方の要介護期間が茨城県並みになったときに、介護費用はどれぐらい減ることが予想されるのでしょうか。つまり、その間の介護負担額について、男性で総額幾ら、女性で総額幾ら、そしてその合計は総額幾らになるでしょうか。福祉保健部長、お答えください。

茨城県との介護負担額の差額は男性8億5千万円女性29億3千万円合計約38億円

福祉保健部長（中川伸児君）　状況が異なる茨城県と対比して本県における介護費用の減少額を試算することは非常に困難ですが、議員御指摘のとおり、健康づくりを進めることにより、主として要支援等になる時期が遅くなると推測されます。

仮に茨城県との要介護期間の差をもとに軽度者の要介護期間が一斉に短縮されたとした場合には、介護に必要な費用は、年間で男性が8億5000万円、女性が29億3000万円、合計約38億円減少する計算となります。

浦口議員　ざっくりですが、合計で38億。ぜひ頭の中へ入れていただきたいと思います。

健康保持増進を考える上で、健康の3要素として、運動、栄養、休養、そしてそれをチェックする健康診断、さらには精神的、社会的な要素など、さまざまな角度から考えていかなければなりません。

この2月議会において、現役世代の健康づくりのため、ミドルエクササイズの考案ということを提案したところ、西下教育長から、「新たにミドルエクササイズをつくることも一考ですが、ウオーキングやジョギングを初め、誰もが経験したことがあり、また、最近その効果が見直され、ブームにもなってきているラジオ体操などが、手軽にできるエクササイズとして有効だと考えております」という答弁をいただいたので、4月に入り、東京の虎ノ門にあるNPO法人ラジオ体操連盟、また大阪北浜にある同近畿事務所、さらに和歌山県での窓口になっているJPかんぽ生命を訪ね、全国の状況と和歌山県の現状を調べましたが、残念ながら和歌山県は、ラジオ体操について、ほとんどと言っていいほど熱心ではないということがわかってまいりました。

それでは行政主導で行っている市町村はないのかとお聞きすると、埼玉県の鶴ヶ島市というところが熱心であるということだったので、先月、鶴ヶ島市へ訪ねてまいりました。

同市では、平成11年より当時の市長の命を受けて、東京からNHKやラジオ体操連盟の指導者を毎年数日呼んで、そのたびに多くの市民に声をかけ、その後、できるだけ各地域で実践する自主運営組織づくりを徹底したところ、現在では人口7万人の市に21カ所、ほとんど年中活動するクラブができたと言っておられました。参加してる方の年齢層はとお聞きしますと、ほとんどが70歳以上であるということでありました。

早朝6時半に集まって一斉に体操する場合、なかなか働いている人たちが参加することができないのは当然のことかもしれません。それだけに、この2月議会において西下教育長が答弁されたミドルエクササイズとしてのラジオ体操はいいのですが、どのようにして60歳までの現役世代の方に普及さしていくことができるのか、疑問を感じました。

そこで、詳しく調べてみますと、教育委員会のスポーツ課には職場体育連盟という組織があり、全部で22団体、合計2万1800人で構成されていますが、ここに浸透さしたとしても、和歌山県の60歳までの勤労者人口約35万600人の6％にしかなりません。

教育長、この点を踏まえて、ミドルエクササイズとしてのラジオ体操の今後の取り組みについてお答えください。

教育長（西下博通君）　今年度、地域スポーツ指導者等研修会を創設し、ラジオ体操の講習を実施したほか、庁内各課主催の健康関連セミナー等での出前講習を行うなど、取り組みを進めているところです。

今後、全県的な取り組みに広めていくためにも、市町村教育委員会はもとよりNPO等とも連携しつつ、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ関係者を初め、退職教員などにも参加を呼びかけ、約200人のラジオ体操指導員を養成するとともに、県内15カ所程度で約1000人の方々に正しいラジオ体操を体験していただくラジオ体操体験教室を開催したいと考えております。

さらに、「出張！県政おはなし講座」などの制度を積極的に活用するとともに、健康推進課を初め関係部局との連携を密にし、養成した指導員を活用しながら、地域におけるラジオ体操グループづくりを推進するほか、ミドル世代への取り組みについて検討してまいります。

浦口議員　先ほど推進会議を設けていただくということを福祉保健部長に言っていただきましたけれども、そこだけに頼らずに、ぜひとも教育委員会といたしましても、ミドルエクササイズとしてラジオ体操という名称が出てきたわけですから、どのようにして浸透させるかということを考えていただいたと思います。

最後に、健康推進員についての質問でございます。

この2月議会において、長野県の保健補導員制度が同県の健康長寿の実現において大きな役割を担っているということを述べました。

長野県の人口は212万人ですが、全77市町村に組織化された保健補導員制度があり、全県で約1万1000人の方たちがボランティアとして常に県民の健康保持のために活動しているので、ぜひ和歌山県でもこのような制度をつくるべきではないかと質問したところ、当時の山本福祉保健部長は、「今後、各地域における健康づくりのリーダーの拡充と養成を通じて、地域・職域連携推進協議会をさらに実践的な活動ができるきめ細やかな組織に発展させ、長野県の保健補導員のような地域に密着した健康づくり活動を幅広く実行してまいります」と答弁されました。

その後、和歌山県内の各市町村を調べてみると、保健補導員という名称ではありませんが、健康推進員という総称で、県内30市町村のうち11市町で合計696名の方たちが同じような地域保健のボランティアをされていることがわかってまいりました。

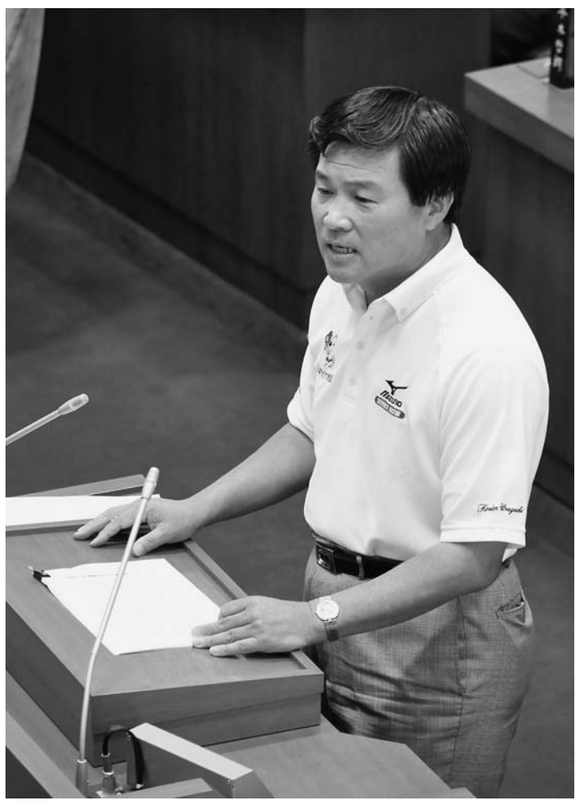
しかし、長野県は人口212万人で、保健補導員は、先ほども申しましたように約1万1000人ですから、人口がその半分弱とはいえ、和歌山県で696名というのはいかにも少ないと言えます。それに、この10市町の中には、先ほど申し上げました女性の平均寿命が全国下位50の中に入っている御坊市でも63名、橋本市で48名、那智勝浦町で11名と、少ないとはいえ、一応そのような役割を持ったボランティアの方がいらっしゃいます。しかし、このような結果ということは、この地域での制度が余り効果が上がっていないと言わざるを得ません。

やはりここで県が、この健康推進員の制度設計を含めて、リーダーシップを発揮して人材育成をすべきものだと私は考えておりますが、福祉保健部長、今後の計画について、はっきりとお答えください。

福祉保健部長（中川伸児君）　生活習慣病を予防し、県民の健康づくりを推進するためには、1次予防として運動による健康づくりや食生活の改善、2次予防として健診の受診等が重要です。そのため、健康推進員制度を創設し、健康推進のリーダーとなる人材を年間500人、5年で2500人を目標に、各保健所で育成してまいりたいと考えております。

今後、県民の健康増進のため、その制度を活用し、ラジオ体操などの気軽に参加できる運動や健康教室等の周知、健診の呼びかけ等、身近でよりきめ細かい取り組みを行ってまいります。

浦口議員　年間500人、5年間で2500人を目標に健康推進員をつくっていただけるということで、きょうは、先ほどの教育長の御発言、200人のラジオ体操指導員をつくる、また、中川部長の『健康長寿日本一わかやま』推進会議をつくるということをはっきり明言していただいて、それを我々が後を検証さしていただくと、そういう姿勢が本来の県政だと思いますので、ぜひともこの年間500人、5年間で2500人を目標によろしくお願いいたします。



『健康長寿

「紀州よさこい祭り」をモデルにリーダー育成を！

浦口議員　「紀州よさこい祭り」に見る地域リーダーの育成と市民力向上についてです。

「紀州よさこい祭り」は、当初2人の若者の発案からこの祭りの種が和歌山にまかれ、芽を出し、やがて幹が育ち、枝を張り、葉をつけ、そして今ではみんなが見たくなるような美しい大輪の花を咲かせたのではないかと私は思います。

今から12～13年前でありますけれども、NPO活動を通じて知り合った彼ら2人から相談を受け、まず少しでも多くの人に体験してもらおうと、私の日本拳法の道場を開放し、定期的な練習から始めました。そのうち、いろんな方が踊りのおもしろさに引かれ、集まってくるようになり、また、それまで和歌山になかった踊りだけに、いろいろなイベントに呼ばれるようになりました。そのことによって、さらに踊りたいと言う人がふえ、踊りの輪がどんどんと広がってまいりました。

祭りの運営資金につきましても、平成16年の第1回大会では、当初最低800万という予算が出され、最初はみんな、ほとんどが若者中心でしたので、大変驚いて躊躇しましたけれども、その予算額を大きく上回る1490万円を集めることができました。

そして、毎年少しずつ確実にパワーアップし、ことしの運営資金約3250万円も自分たちで集め、財政基盤もしっかりした体制をつくり上げました。スタッフも当初数名で発足したものが、今では600名を超える人たちが無償でこの祭りを支えております。

「紀州よさこい祭り」に学ぶべき点は、決してこれは一過性のものではなく、12～13年前にほとんど和歌山の人が知らなかったよさこい踊りというものを地道な地域活動を通じて広げ、今では県内に広く知れ渡り、県民活動として高く評価することができるのではないかと思います。

そこで県政においても、これから起こるさまざまな問題に対して、知事、議員、県職員だけではなく、問題意識のある個人や団体が共同して取り組み、県民運動を起こすことで必ずや解決に導くものだと私は思います。それだけに、「紀州よさこい祭り」のプロセスを県としても大いに学び、県民が本当に意識を持って参加してもらわないと到底目標を達成することができないことなど、この手法を活用するべきものだと思います。例えば先ほどの『健康長寿日本一わかやま』を本当に達成するには、このような手法が参考になると私は考えております。

「紀州よさこい祭り」などから学び、地域リーダーを育成し、市民力を向上させていくことについて、環境生活部長、どのように考えられているかお答えください。

環境生活部長（塩崎　望君）　NPO紀州おまつりプロジェクトが主催するおどるんや～紀州よさこい祭り～は、県内外から100チーム、約4000人が参加する和歌山を代表する祭りとなりました。行政の主導ではなく、地域の方々とともに祭りをつくり上げる中で地域のつながりが再認識され、地域の活性化に多大の貢献をしている祭りです。

この祭りでは、自分たちで地域をつくり上げていこうとする地域リーダーが育ち、祭り全体を運営しています。県内には、このような地域のさまざまな課題に対し、それぞれの分野で自主的、自発的な活動を展開している地域リーダーがいます。

県といたしましても、よりよい地域づくりのためには、地域の方々とともに協働していくことが重要であると考え、行政だけではなく、NPO、地縁組織、企業等、地域における多様な担い手が連携して取り組みを進める支援をしているところです。「紀州よさこい祭り」を1つのモデルとして協働、連携を深め、目標に向かって活動を充実することにより、県民の力を高めていきたいと考えています。

浦口議員　これから新しい県政の諸問題の解決の手法として、こういったいわゆる市民活動、県民活動をいかにうまく連携していくかということが今後大事なことだと思いますし、ぜひともこういった市民の内側から出てきたノウハウというのを県政もうまく活用して、お互いに伸びていくように、行政も県民の皆さんも喜んでいただくように、ぜひとも頑張っていただきたいと思います。

若者を和歌山へ戻す「夢の通勤快速」を！

浦口議員　ここで、質問の内容をがらりと変えまして、私の地元であります和歌山市を活性化するための基盤整備についてであります。

基盤整備といいましても、いわゆる道路を通し橋をかけるという話ではなく、和歌山市の活性化について本当に必要なのは、私は大阪との鉄道時間の短縮であると以前から考えておりました。もちろん、全てがそれで活性化するとは言いませんが、大きな起爆剤になると思いますので、ここで質問させていただきます。

先日、大阪である会合がございまして、その後の懇親会の席上、初対面の大阪の方に「和歌山からきょう参加しました」と言うと、驚いた顔をして「えらい遠いとこから来たんですな。今晩帰れますか」。京都や神戸、また滋賀や奈良とも距離的には大きく変わらないと思うのですけれども、和歌山イコール遠い国と思われている原因の1つに鉄道時間の長さがあると思います。

また、私、今でも月に1～2度、JR和歌山駅前で朝立ちをして、「がんばろう日本」、東日本大震災並びに台風12号紀伊半島被災、水害の義援金募金活動をしておりますけれども、そのときに、ちょうどラッシュ時にJR大阪駅へ直行で行く紀州路快速という電車を見ても、人が非常に少ないんですね。

その紀州路快速で天王寺まで65分、大阪梅田まで81分と、相当な時間がかかるんです。和歌山から天王寺まで61・3キロ、また、同じく大阪梅田まで72キロ、電車の時速でいいますと天王寺まで56・6キロで、天王寺から大阪梅田までは環状線に入りますので、さらに時速は遅くなります。

しかし、他の都市、例えば京都から大阪梅田まで42・8キロで28分、時速91・7キロメートル、神戸三ノ宮から大阪梅田まで30・6キロで23分、時速79・8キロ、滋賀大津から大阪梅田まで53・8キロで40分、時速79・2キロということになり、天王寺―和歌山間は時間がかかり過ぎるということは、これで和歌山と大阪の心理的な距離感を持っているということを私は常々感じております。

企業誘致も大事でしょうが、それより思い切って大阪を和歌山に近づける、つまり通勤時間の一層の短縮により、現在大阪に住んでいる和歌山出身の人たちも住みよい和歌山市に戻っていただくことによって再活性化を図れるのではないかと、そのように私は思います。

現在、特急くろしおでは和歌山―天王寺間は42分で行けますし、先ほどの京都―大阪間の電車の速度で和歌山―天王寺間を走らせますと、さらに時間は短縮されて約40分で行くことができるんです。主に通勤する電車を40分程度に抑えることにより、住環境のすばらしいこの和歌山市は、単にベッドタウンとしてだけではなく、人口激減の厳しい時代の流れの中で、現役世代の定住人口を少しでも増やすことにより、土曜、日曜は地域ににぎわいが戻り、活力を取り戻したまちに再生することも十分考えれると思うのですが、企画部長、通勤電車の時間短縮について御答弁を求めます。

企画部長（野田寛芳君）　大阪―和歌山間の鉄道時間の短縮についてでございますが、JR西日本からは、快速電車を特急くろしおと同等の40分程度に短縮するためには、天王寺―和歌山間をノンストップで走らすこと、それから阪和線内を運行している列車の本数を極端に減らすなどの対策が必要であり、利用者の利便性を損なうことから、現実的には困難と聞いております。

しかしながら、大阪と和歌山の時間距離の短縮は、本県にとって交流人口、定住人口の拡大や地域の活性化につながることが期待されますので、少しでも所要時間が短縮されるようJR西日本に働きかけてまいります。

浦口議員　先日、鉄道に詳しい方から、現在、天王寺―和歌山間を走っている223系や225系の最高時速が120キロということを聞きました。例えば87％ぐらいのスピード、つまり105キロで行けば、和歌山―天王寺間は35分も夢でないということを耳にしました。

今はまだ夢の夢の通勤快速でありますけれども、忘れもしません、中学校の修学旅行で夢の超特急ひかり号に初めて乗りました、和歌山の田舎者が。びっくりしました。当時、東京―大阪間を3時間10分で走ったんですね。当時、まだ和歌山の紀勢本線はSLが走ってました。

それが今では40分も短縮されて、のぞみ号が2時間30分で東京―大阪間を走れることが現実になってます。しかも、これから10数年後、リニアモーターカーができたら東京―大阪間を1時間で行けるようになるということであります。

そんな時代に、この和歌山のようなとこが、これから人口が本格的に激減する地域がこのまま黙ってていいのかと私は真剣に思います。私は和歌山市の選出の県会議員としてはっきり言いますが、鉄道時間を短くすることによって和歌山はもう一度よみがえることができる、これは強く思っておりますし、知事も和歌山市出身でありますんで、ぜひとも和歌山市のために気合いを入れていただいて、この鉄道を短くすることをぜひともJRにも働きかけていただきたい。

これは今回初めての質問で、これ以上どうのこうの言うつもりはございませんけど、今後じっくりと調べまして、いろんな方法、鉄道時間を短くする、いわゆる距離を短くする方法はないか考えてまいります。

都道府県別　健康寿命等の状況（平成22年度平均）

〈浦口高典議員の質問に関する資料〉

男性	健康寿命	順位	平均寿命	順位	要介護期間	順位
長野県	78.59	1	80.88	1	2年4か月	20
福井県	78.19	2	80.47	3	2年4か月	19
滋賀県	78.18	3	80.58	2	2年5か月	27
神奈川県	77.83	4	80.25	5	2年5か月	30
熊本県	77.80	5	80.29	4	2年6か月	37
静岡県	77.80	5	79.95	10	2年2か月	7
奈良県	77.78	7	80.14	7	2年5か月	25
岐阜県	77.76	8	79.92	11	2年2か月	9
山形県	77.74	9	79.97	9	2年3か月	12
千葉県	77.73	10	79.88	13	2年2か月	6
山梨県	77.62	11	79.54	25	2年0か月	3
大分県	77.55	12	80.06	8	2年6か月	38
京都府	77.53	13	80.21	6	2年8か月	45
埼玉県	77.47	14	79.62	23	2年2か月	7
宮崎県	77.46	15	79.70	20	2年3か月	15
愛知県	77.45	16	79.71	17	2年3か月	17
香川県	77.40	17	79.73	16	2年4か月	23
東京都	77.35	18	79.82	14	2年6か月	36
宮城県	77.35	18	79.65	22	2年4か月	22
広島県	77.32	20	79.91	12	2年7か月	43
石川県	77.32	20	79.71	18	2年5か月	26
富山県	77.30	22	79.71	19	2年5か月	29
三重県	77.25	23	79.68	21	2年5か月	33
茨城県	77.23	24	79.09 (※)―Ⅰ	36	1年11か月	1
栃木県	77.19	25	79.06	38	1年11か月	2
群馬県	77.17	26	79.40	29	2年3か月	12
新潟県	77.13	27	79.47	27	2年4か月	24
佐賀県	77.11	28	79.28	32	2年2か月	10
島根県	77.05	29	79.51	26	2年6か月	35
岡山県	77.04	30	79.77	15	2年9か月	46
兵庫県	77.04	30	79.59	24	2年7か月	39
徳島県	76.89	32	79.44	28	2年7か月	39
福岡県	76.88	33	79.30	31	2年5か月	30
鹿児島県	76.81	34	79.21	33	2年5か月	27
山口県	76.80	35	79.03	39	2年2か月	12
福島県	76.77	36	78.84	44	2年1か月	4
沖縄県	76.76	37	79.40	30	2年8か月	44
北海道	76.75	38	79.17	34	2年5か月	30
鳥取県	76.75	38	79.01	40	2年3か月	18
愛媛県	76.68	40	79.13	35	2年6か月	34
高知県	76.62	41	78.91	42	2年4か月	20
和歌山県	**76.52**	**42**	**79.07 (※)―Ⅰ**	**37**	**2年7か月**	**39**
岩手県	76.32	43	78.53	45	2年3か月	11
長崎県	76.31	44	78.88	43	2年7か月	42
大阪府	76.25	45	78.99	41	2年9か月	47
秋田県	75.97	46	78.22	46	2年3か月	16
青森県	75.17	47	77.28	47	2年1か月	5

女性	健康寿命	順位	平均寿命	順位	要介護期間	順位
長野県	81.97	1	87.18	1	5年3か年	11
山梨県	81.87	2	86.65	13	4年10か月	3
福井県	81.69	3	86.94	7	5年3か年	13
新潟県	81.48	4	86.96	5	5年6か月	20
茨城県	81.38	5	85.83 (※)―Ⅱ	44	4年6か月	1
静岡県	81.32	6	86.22	32	5年0か月	5
宮崎県	81.31	7	86.61	16	5年4か月	14
滋賀県	81.25	8	86.69	12	5年6か月	18
島根県	81.24	9	87.07	2	5年10か月	34
岐阜県	81.23	10	86.26	29	5年0か月	6
福島県	81.17	11	86.05	38	4年11か月	4
山形県	81.14	12	86.28	28	5年2か月	9
高知県	81.12	13	86.47	21	5年4か月	17
熊本県	81.11	14	86.98	4	5年11か月	35
富山県	81.09	15	86.75	10	5年8か月	24
千葉県	81.09	15	86.20	34	5年1か月	8
石川県	81.08	17	86.75	11	5年8か月	26
栃木県	81.08	17	85.66	46	4年7か月	2
宮城県	81.07	19	86.39	23	5年4か月	15
佐賀県	81.02	20	86.58	18	5年7か月	21
神奈川県	81.01	21	86.63	15	5年8か月	23
愛知県	80.89	22	86.22	31	5年4か月	16
大分県	80.88	23	86.91	9	6年0か月	36
奈良県	80.83	24	86.60	17	5年10か月	32
埼玉県	80.81	25	85.88	42	5年1か月	7
沖縄県	80.72	26	87.02	3	6年4か月	43
群馬県	80.70	27	85.91	41	5年3か年	10
岩手県	80.64	28	85.86	43	5年3か年	12
東京都	80.63	29	86.39	22	5年6か月	31
鳥取県	80.61	30	86.08	36	5年6か月	19
広島県	80.60	31	86.94	6	6年4か月	44
香川県	80.60	31	86.34	24	5年9か月	29
北海道	80.53	33	36.30	25	5年10か月	32
鹿児島県	80.53	33	86.28	27	5年9か月	30
愛媛県	80.51	35	86.54	19	6年0か月	36
三重県	80.51	35	86.25	30	5年9か月	28
山口県	80.47	37	86.07	37	5年8か月	22
京都府	80.46	38	86.65	14	6年2か月	41
福岡県	80.45	39	86.48	20	6年0か月	36
岡山県	80.42	40	86.93	8	6年6か月	46
秋田県	80.26	41	85.93	39	5年8か月	26
徳島県	80.08	42	86.21	33	6年2か月	39
兵庫県	79.98	43	86.14	35	6年2か月	40
長崎県	79.87	44	86.30	26	6年5か月	45
青森県	79.68	45	85.34	47	5年8か月	24
和歌山県	**79.46**	**46**	**85.69 (※)―Ⅱ**	**45**	**6年3か月**	**42**
大阪府	79.29	47	85.93	40	6年8か月	47

（出典：県・健康推進課）

ここでは平均寿命を男女とも和歌山県と茨城県は、ほぼ同年数（※）―Ⅰ、Ⅱと考える。

要介護期間は。和歌山県の方が茨城県より男性8ヶ月、女性1年9ヶ月長いことになる。

この要介護期間の介護費用は、男性8億5千万円、女性29億3千万円、合計約38億円と算出できる。（出典：県・長寿社会課）

『健康長寿日本一わかやま』実現へ
調査・実践・発信・意見交換

県保健師会の皆さんと（3／8）

全国でも有数のラジオ体操に取り組む東京・墨田区ラジオ体操連盟の佐藤会長〈右〉と岩田副会長と。（6／3）

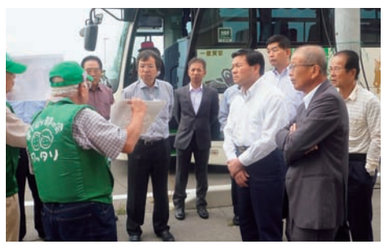
NHKラジオ体操の指導者で有名な岡本美佳先生〈右〉を和歌山市に招き、講習会で実施。（7／7）

那賀（岩出・紀の川）地区の栄養士の皆さんと。（4／22）その他「県健康運動指導士会」等の皆さんとも懇談。（3／7）

埼玉・鶴ヶ島市でラジオ体操を広く市民に普及した石川春美さん〈左・保健師〉と。（8／23）

NPO関係の「紀望塾」にて『健康長寿日本一わかやま』について講演。（11／7）

県議会文教委員会視察


◀宮城・亘理町で「津波語り部」の話をじっくり聞く。（10／4）

▲紀北農芸高校で北岡校長より学校の現状について説明を受け、質問をする。（10／2）

◀生徒一人ひとりがテーマをもって研究に取り組む姿を視察。

県議会「改新クラブ」活動
マレーシアへはイスラム教の「ハラル」を福井県へは、「原発」について現地調査

クアラルンプールのランドマーク、ツインタワーを背景に。（3／23）

日本貿易振興機構（ジェトロ）クアランプール事務所・池下所長と。（3／22）

全国都道府県議長会主催の議員研修会へ「改新クラブ」を代表して。（11／12）

福井県へ原子力発電所の現状を視察・調査。（9／6）

県幹部と「改新クラブ」との懇親会で、仁坂知事と。（3／12）

地元今福消防団活動

20年以上消防団活動を行なうとともに、また「保護司」や「スポーツ推進員」としても活躍。

神明神社の夏祭りで、防火のため見張りを。（7／16）

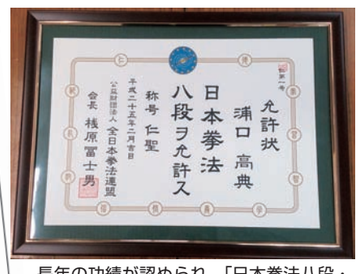
愛徳整肢園の秋祭りでは毎年恒例の餅つきを。（11／3）

「公益財団法人 全日本拳法連盟」普及活動

6月の理事会において「代表理事代行」に選出されました。

東京本部事務局での理事会で、今後の方向性について自論を熱く語る。（6／2）

「第2回全日本拳法選手権大会」を報道する全国専門誌。



長年の功績が認められ、「日本拳法八段・称号仁聖」に昇段。

民主党全国幹事長研修会＜懇親会＞
（10／5、6）福島市

海江田代表（元経済産業大臣）と。

大畠幹事長（元国土交通大臣）と。

「和歌山トライアンズ」
（和歌山初のプロバスケットボールチーム）を応援

やはり早大の後輩である久保田選手（197㎝・94㎏）と。

早大の後輩でもある古川・和歌山トライアンズ社長と。（11／16）

さすがはプロ、テンポの速い試合展開で、観客を魅了。

「第10回紀州よさこい祭り」

10数年前に２人の若者と私の３人で種をまいた祭りが大きく成長、市民発のパワーが全開（約３千人の踊り子、約28万人の観客動員）しました。

▲和歌山初のよさこいチーム「和歌山MOVE」の演舞、今年は準大賞。（8／13）

「和歌山MOVE」で踊る妻・孝子。

10回記念の合同チーム「一廻」（いちえ）の演舞。（8／3、4）

長女・佳菜は、社会人3年目、大阪で会社勤め。（10／12）

次女・真実は京都の大学4年生、今年4月から和歌山で就職。（11／11）

ニッケンスクール高典塾
今年も本塾の塾生が全国大会で大活躍。

〝地域づくりは人材づくりから〟

「ニュース和歌山」6月12日　「ニュース和歌山」8月17日

「ニュース和歌山」12月24日

少年部塾生の指導を行なう。（10／16）

▲松本元外務大臣と。（5／9）

◀大畠幹事長を和歌山に迎えて、県連幹部との懇談会で冒頭挨拶（10／9）

「県連の強化が党再生ペース」
大畠民主幹事長が来県
民主党の大畠宏幹事長と五島敏弥幹事代理が9日来県し、和歌山県内の党員懇談会に出席した。懇談会では、「党再生のペースになる」とあいさつ。「県連の強化が党再生ペース」と強調した。
大畠幹事長は、「県内の全選挙区に代議士を立てられるよう頑張る」と述べた。また1年半後の統一地方選で「候補者を入れて応援する」とした。
「7月の参院選で民主党は、和歌山選挙区での候補者擁立を断念、大畠幹事長は「擁立できなかったことを深くお詫びする」と申し訳なく思う。候補者擁立の前提条件を満たせず、「地域における県連の強化が党」、政治スクールを開校して議論を交わした。
大畠幹事長は昨年12月の総選挙で大敗を喫し、夏の参院選でも及ばなかった。「党本部と申し訳なく思う。候補者擁立の前提条件を満たせず、「地域における県連の強化が党」、政治スクールを開校して議論を交わした。
「党再生のペースになる」とあいさつ。「県連の強化が党再生ペース」と強調した。
大畠幹事長は、「県内の全選挙区に代議士を立てられるよう頑張る」と述べた。また1年半後の統一地方選で「候補者を入れて応援する」とした。
「7月の参院選で民主党は、和歌山選挙区での候補者擁立を断念、大畠幹事長は「擁立できなかったことを深くお詫びする」と申し訳なく思う。候補者擁立の前提条件を満たせず、「地域における県連の強化が党」、政治スクールを開校して議論を交わした。
大畠幹事長は昨年12月の総選挙で大敗を喫し、夏の参院選でも及ばなかった。「党本部と申し訳なく思う。候補者擁立の前提条件を満たせず、「地域における県連の強化が党」、政治スクールを開校して議論を交わした。
10月10日（木）「産経新聞」

▲民主党和歌山県連定期大会（11／9）

新代表に岸本氏
幹事長は浦口氏
民主党県連
民主党県連の定期大会が9日、和歌山市内で開かれ、岸本周平衆議院議員（和歌山1区）を代表に選出した。幹事長に浦口高典県議（和歌山市）の任期は1年。
大会閉会後、取材に応じた岸本氏は、来年の統一地方選挙に向け、「候補者擁立の前提条件を満たせず、地域における県連の強化が党」と強調した。
「一致団結して、党再生のペースになる」とあいさつ。「県連の強化が党再生ペース」と強調した。
大会閉会後、取材に応じた岸本氏は、来年の統一地方選挙に向け、「候補者擁立の前提条件を満たせず、地域における県連の強化が党」と強調した。
大畠幹事長は、「県内の全選挙区に代議士を立てられるよう頑張る」と述べた。また1年半後の統一地方選で「候補者を入れて応援する」とした。
「7月の参院選で民主党は、和歌山選挙区での候補者擁立を断念、大畠幹事長は「擁立できなかったことを深くお詫びする」と申し訳なく思う。候補者擁立の前提条件を満たせず、「地域における県連の強化が党」、政治スクールを開校して議論を交わした。
大畠幹事長は昨年12月の総選挙で大敗を喫し、夏の参院選でも及ばなかった。「党本部と申し訳なく思う。候補者擁立の前提条件を満たせず、「地域における県連の強化が党」、政治スクールを開校して議論を交わした。
11月10日（日）「毎日新聞」

記者団に囲まれて、県連幹事長としてコメント発信。（10／9）

◀民主党近畿ブロック自治体議員研修会あと講師の山本・宇治市長〈右〉と。（11／11）

7月の参議院議員選挙の全国比例区では石井一前参議院予算委員長を応援。しかし惜しくも落選。（7／15）

▶和歌山市役所の西側アラスカビル5階。

党本部と都道府県連盟を結び、政策についてのWEB会議を週1回ペースで行なう。▼

アサヒビール（株）本社で平野専務取締役（早大日本拳法部の1期後輩）と。（6／3）

北川早大大学院教授（元三重県知事・早大日本拳法部の10期先輩）（10／31）

第54回「全国スポーツ推進員研究協議会」で古巣のミズノ（株）の後輩社員たちと。（11／22）

和歌山市のスポーツ推進委員の皆さんと。（11／22）

「日向屋」オープンの日、友人の中村君と。（7／17）

NIPPON　がんばろう日本　まけへんでえ和歌山　WAKAYAMA

堀止西の後援会事務所にも「がんばろう日本」の大きな看板が。

東日本大震災
民主党県連から
日本赤十字社へ
（災害義援金）
￥342,931
（H23.8/25）

▲福島・飯舘村放射能に汚染された黒いビニール袋が山と。（10／6）

◀宮城・亘理町約5mの津波の高さを示すモニュメントと鎮魂碑の前で。（10／4）

台風12号紀伊半島大水害
那智勝浦町へ（災害義援金）
￥89,764
（H24.3/29）

▲定期的に街中に立って災害義援金募金活動中。（4／27）

真砂・田辺市長へ

田岡・新宮市長へ

台風12号紀伊半島大水害
田辺市へ（災害義援金）
￥92,525
（H25.5/20）

台風12号紀伊半島大水害
新宮市へ（災害義援金）
￥79,943
（H25.11/8）

合計 **￥602,223**